

鹿児島大学医学部長 挨拶文（臨床実習生（医学）授与式）

医学科4年生の皆さん、今回のこの医師の仮免許ともいえる制度、臨床実習資格授与式まで、まずはやってきました。おめでとうございます。CBTならびに4年次OSCEに合格し、臨床実習生としての資格を得られたことを心よりお祝い申し上げます。ここに至るまでの努力と研鑽に、敬意を表します。

CBTは、医学の基礎知識を体系的に確認する重要な試験であり、OSCEは、医療現場で求められる基本的な診療技能や態度を評価する試験です。これらを乗り越えたということは、皆さんのが医師としての第一歩を踏み出す準備が整ったことを意味します。これまでの学びは、教科書や講義室の中で完結するものでしたが、これからは病院や診療所という実際の医療現場で、患者さんと向き合いながら学ぶ段階に入ります。

日本の外来患者数、入院日数は年々減少し、医師一人当たりの患者数も年々減少しています。平均年収も年々減少しています。今後、医師数が急激に増えたこともあり、更に減少するでしょう。患者接遇、自身のスキルアップを求める医師と、何もしない医師との差は当然大きくなり、学び続ける努力をしないものは淘汰されていきます。

医師として問題がある人は、自分で気が付いていない場合が多いです。具体的な問題態度は

- ① 患者をデータでしか診ない
- ② 患者の話を聞いたようで聞いていない
- ③ 看護師、事務員、放射線技師などへの言葉がきつい
- ④ 重要な伝達事項を忘れる
- ⑤ 身だしなみが悪い
- ⑥ はっきりものをいう事がよい事ではない（日本人特有の心理）
- ⑦ 上から目線に見える

こうした行動は、自身の評価となって帰ってきます。

患者さんはお客様のようなものであり、印象は極めて大事で、患者の心を掴んで

こそ、お互いに良い関係になり、トラブルを回避し、患者の利益に繋がります。取るべき行動としては、

- ・教室の指導医や他の医局員の態度を観察して、良い点、悪い点を自分のものにする
- ・治療する事を最大の目標にしない
- ・めんどくさいと思わない
- ・病院経営に理解がある
- ・相手（患者）の側に立って、客観的な視点で考える

こうしたことが重要です。真摯な態度を忘れず、患者さんに感謝し、今後の臨床実習を行ってください。これから皆さんの活躍を心から願っております。

令和7年12月25日
鹿児島大学医学部長 大脇哲洋